

Neyrinck MIX51 で始める

デスクトップサウンズのススメ ~
お仕事のし過ぎには気をつけて!!

by Yoshida



■ Neyrinck 社 MIX51 価格 27,300 (税込)
5.1 Surround Panning & Mixing
Plug-in for ProTools LE / M-Powered Systems



(図2) Mix51 Surround Mixer

(図3) Mix51 Surround Panner



(図4) Mix51 LFE Send

*前置き

Tac System フリークな皆さんには、ご記憶あるかと思いますが、以前弊社にて取り扱いの Kind of loud 社、Smart Pan なるソフトが存在致しました。

世間でのサウンドミックス需要が高まる中、Pro Tools バージョン 4 上でいち早く 5.1 Mix を可能にする優れモノのプラグインで、digidesign 純正のサウンド対応がなされるまで、引っぱりダコの、One and Only な一品でした。

時代は流れ、Pro Tools LE ファミリーの進化も、当初ホビーユース / Pro Tools ビギナー向けの位置付けだった物が、RTAS プラグインの登場に始まり、DV Toolkit のリリースがされた事により、プロユーザー様でのオフライン機 / メインマシンにも十分使用可能であるとの認識が高まりました。

次期 7.4 では、ついに Avid MOJO 対応もされ、MA スタジオが「個人投資で自宅へ」の時代となる勢いです。

そんな中、更に機能を拡張すべく、LE、M-Powered 対応サウンズパンナープラグイン「Neyrinck (ないりんく) 社 MIX51」が登場です。タックとしては Smart Pan のリベンジです (苦笑!!)

カテゴリとしては、Pro Tools LE シリーズに 5.1 パンポットを提供すると言うシンプルなモノですが、開発者がプロ向けにしっかり機能を網羅したので、操作にあたりユーザー様が取っ掛かりで躊躇しかなないと判断し、今回の執筆と相成りました。以下、順を追って解説させていただきます。

注) 始めにお断りして置きます。ソフトウェアの対応状況ですが、物理的な 6ch のオーディオアウトがモニター上、必要な為、Pro Tools 用インターフェースは最低でも MBOX Pro が必要です。(その他 DIGI002,003 等がお勧め。M-Powered 用でも 6ch OUT の物を選んで下さい。) サウンドモニターするのに当然、5.1 のスピーカーセットも必要です。

*製品説明~原理から

まず原理ですが、実は以外とお気づきになって居ないかな?と思う PT バージョン 6.7 からの機能を使用します。各トラックのインプットのプルダウンを見ると、「インターフェース」「バス」に加えて「プラグイン」のメニューがあります。通常はグレーアウトしていますが、対応プラグインをインサートすると自動的にメニューが有効となります。主にマルチ音源のソフトシンセサイザーを使用した際、音声出力を分けて処理する為に使用します。

ドラム音源の Strike を例にすると (図1)、左端の Aux トラックに Strike を一つだけインサートして、その右隣 3 つの Aux トラックで kick, Snare, Hihat を個別に受けて、EQ 等で加工しています。この様に、プラグインのアサインを分けた場合、各音色は左端のメインフェーダー出力では無く、「プラグイン」バスを通して別々にアサイン / 出力されます。MIX51 もこの機能を使用します。



(図1)

*実際の使用法~はじめに

LE システムでは I/O 設定でサウンドバスの指定が無理な為、サウンドパンナーの設定 / 使用が出来ません。(もちろん AUX バスを酷使して電氣的には不可能では無いですが、実用性からは程遠いオペレートとなります。)

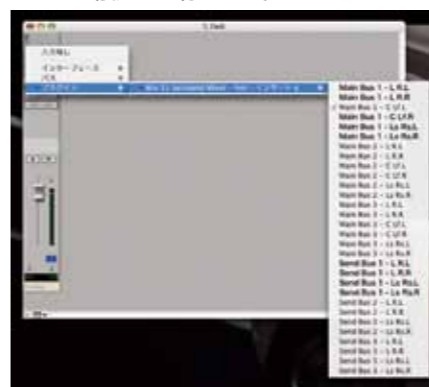
「MIX51」を使用する事により、このサウンドバスのルーティングを前述の「プラグイン」バスを使用して可能にします。



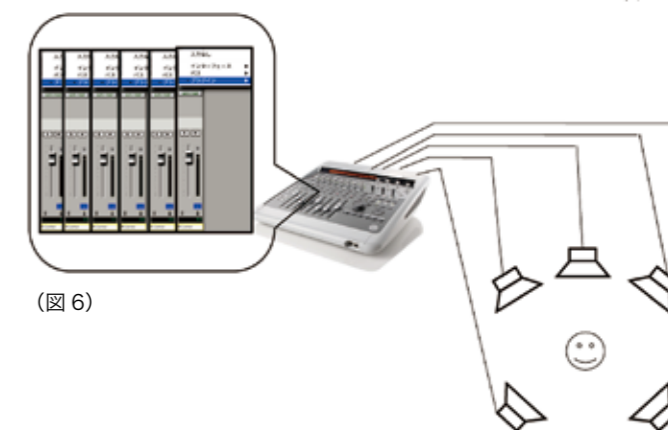
(図5) 信号の流れのイメージ

*実際の使用法~その1 モニターアウトを設定

- 1) モニターレベルが調整し易い方法で結構ですが、例として AUX トラックをモノで 6 本作り、「出力」先に 003 等のモニター SP をつないだインターフェースを設定します。
- 2) 次にサウンドパンを行いたいトラックでも良いですし、全くダミーの AUX トラック (MONO で OK) を 1 本作り、そこに「Mix51 Surround Mixer」をインサートして下さい。この時点で、前述の「プラグイン」バスが有効になりました。
- 3) 先程の AUX トラックの「入力」に「Mix51 Surround Mixer」のプラグインバスを設定して行きます。



(図7)



(図6)

ここで「Mix51 Surround Mixer」の画面構成を説明して置きます。ちょうどフェーダーが 6 本並んでいるので、つい L,C,R 等の個別アウト用と思われてしまうかも知れませんが、実は 3 系統の 5.1 メインバスと 4ch (Quad) バスの 3 系統用マスターフェーダーとなっています (図2を参照)。「プラグイン」バスにずらりとリストが出て来ますので (図7)、間違いの無い様、まずは「Main Bus 1」のグループを選んで下さい。

*実際の使用法~その2 さあ楽しいサウンドパンの時間です!

単独に定位させるトラックは通常通り「出力」をそれぞれのインターフェース OUT に指定します。フロントとリアの中間に定位させるとか、グルグル回すには、勿論「Mix51 Surround Panner」登場となります。再度図3をご覧ください。ここで「Mix51 Panner」をインサートした際の、レベル / ボリューム操作に関して注意点をお伝えします。前述の図5に有る様に、「Mix51 Panner」がインサートされたトラック音声は、「Mix51 Mixer」に直接送られるので、そのトラックのメインフェーダーは「無効」となります。(但し「Mix51 Panner」の「Bypass」を押すと、「Mix51 Panner/Mixer」は有効のまま、トラックのフェーダーにも出力されます。) パンは画面の中で設定するもの

*実際の使用法~その3 リバープだって回したいっ!

ヘビーサウンズ Mix エンジニアの方にも納得頂ける仕様の「MIX51」プラグインですが、蛇足ながら駄目押しで Send について語っちゃいます。

- 1) まずリターン用に AUX モノ 4 本か、ステレオ 2 本を作ります。「入力」は「プラグイン」バスの Send Bus を選択、「出力」はインターフェースの L,R,Ls,Rs スピーカーを指定します。
- 2) 作成したこの AUX トラックのインサートセクションにご希望の EFX プラグインを設定します。リバープの使用が頻度高いと思いますが、マルチモノ (MONO, MONO) にすると、パンの定位がよりハッキリと反映しますので移動感がリアルになるかと思えます。但し中抜けも否めないで、更に Send でクロスしたりとか微調整も必要でしょうが、何しろサウンズ対応リバープが無くても D-Verb で出来る事は LE 環境には朗報では無いでしょうか?

*最後に...

如何でしたでしょうか、MIX51 の素晴らしさは伝わりましたでしょうか?こんなに出来て、お値段何と、税込み ¥27,300 です。デモ版もネット経由で入手可能です。URL はこちらです。http://www.neyrinck.com/Pages/mix51.html

*実際の使用法~その4 LFE だけ単独で

意外と単体の送りは必要とヘビーユーザーの方にお聞きして、この「LFE Send」プラグイン (図4) の重要性を知りました。メインバスを指定して、思う存分パンパン送っちゃって下さい。

*実際の使用法~その5 オートメーションだってパッチリ対応!

ムービングは勿論覚えますが、何と TDM 環境へオートメーションデータを Pro Tools の編集機能の「特殊コピー / ベースト」(元のオートメーションとは別のパラメーターに移動) を使用して、TDM 純正のパンへ移せば、ご自宅 (オフライン) の仕込みが無駄にならずに再利用出来ます。数が多いとちょっと手間ですが、折角のイメージをゼロからやり直す事無く再現出来ます。